

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道 <small>しゅとけんちゆうおうれんらくじどうしやどう</small> <small>とうがねもばらじゆうろ</small> （東金茂原道路）	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 関東地方整備局
起終点 自：千葉県東金市丹尾 <small>ちばけんとうがねしたんのお</small> 至：千葉県茂原市石神 <small>ちばけんもばらしいしがみ</small>	延長	21.6km
事業概要 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、首都圏全体の道路交通円滑化や機能の再編成等を図る目的の事業である。 東金茂原道路は、圏央道（茂原～木更津、横芝～東金）に接続し、東京湾アクアライン、館山自動車道と連絡することとなり、千葉県と東京都及び神奈川県とを結ぶ広域的な高速交通ネットワークを形成されるとともに、房総半島における新たな自動車専用道路として、地域の活性化並びに地域間の交流及び連携の強化を図り、地域経済及び産業の発展に寄与する。また、災害時に内陸部から東京湾岸部および県東部沿岸部への緊急輸送ルートとして機能し、既開通区間との接続により防災拠点である木更津港や自衛隊基地等へのルートが確保される等、地域の防災強化に寄与する道路である。		
H13年度事業化		H11年度都市計画決定
H16年度用地着手		H16年度工事着手
全体事業費	約1,168億円	事業進捗率
供用済		供用済延長
21.6 km		21.6 km
計画交通量		
20,900～25,000台/日		
費用対効果分析結果	B/C	総費用
(事業全体) 1.6	(残事業) 4.9	(残事業)/事業全体 318/1,127億円 事業費：295/969億円 維持管理費：22/159億円
		総便益
		(残事業)/事業全体 1,542/1,785億円 走行時間短縮便益：1,282/1,459億円 走行費用減少便益：156/202億円 交通事故減少便益：104/124億円
		基準年
		平成25年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.6～1.7(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.5～1.7(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.3～1.8(事業期間±4年)		
【残事業】交通量：B/C=4.6～5.1(交通量 ±10%) 事業費：B/C=4.4～5.4(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=4.1～5.3(事業期間±4年)		
事業の効果等		
①地域づくり支援 ・首都圏中央連絡自動車道の当該区間は、首都圏及び成田国際空港周辺地域の高規格幹線ネットワークを形成する。圏央道（東金茂原道路）の整備により、首都圏各地からの所要時間が短縮し、自然観光施設の豊富な長生地域がより身近となり、観光客の増加が期待される。		
②救命救急活動支援 ・圏央道東金IC・JCT直近に第三次救急医療施設が開業し千葉県内の30分圏域が拡大し千葉県人口カバー率が95%に向上しており、沿線地域の救急医療の支援に寄与している。		
③災害時の道路ネットワークの強化 ・災害時において、内陸部から東京湾岸部および県東部沿岸部の啓開・復旧ルートへのアクセスが可能となる。		
関係する地方公共団体等の意見		
・千葉県知事からの意見： 圏央道はアクアラインと一体となって、首都圏の各都市と成田空港などの拠点間を環状につなぎ、国際競争力を強化するとともに、国土の強靱化と地方創生を実現していくうえで極めて重要な道路である。東金茂原道路沿線各地域では、開通前と比較し観光入込客数の増加や企業立地の進展など、経済の好循環が現れている。 暫定2車線による供用は、対面交通の安全性や走行性、大規模災害時の対応に課題が多く、安全で円滑な交通を確保し、生産性の向上を導くためには4車線化が必要である。 アクセスの信頼性を更に高め、ストック効果を最大限発現するためにも4車線化の早期整備を図られたい。		
・千葉市長からの意見： 圏央道の整備により、新たな広域ネットワークが構築され、本県及び本市の発展と道路利用者へのサービスの向上、更には大規模災害時における緊急輸送路としての役割を担うことから、当該区間の4車線化及び圏央道全線の早期開通に向けた事業の促進を図られたい。		
事業評価監視委員会の意見		
・事業の継続を承認する。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

圏央道「茂原長南IC～木更津東IC間」が暫定2車線供用（平成25年4月27日）。

圏央道「神崎IC～大栄JCT間」が暫定2車線供用（平成27年6月7日）。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成28年3月末時点、暫定2車線部分の用地は100%取得済み（全体では99%取得済み）。

道路の整備効果の早期発現を図るため、平成25年4月27日に暫定2車線供用。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今後は、暫定2車線供用後の交通状況を鑑みながら、全線4車線完成に向け事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

スマートIC2箇所（茂原長柄SIC（仮称）、大網白里SIC（仮称））の事業許可（平成25年6月11日）

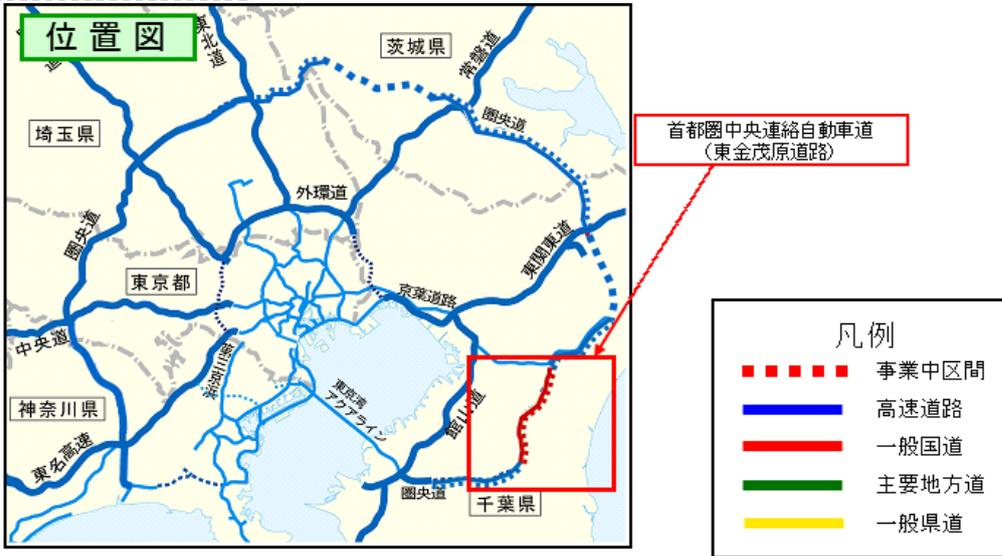
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。